

森林文化講演会報告 「豊かな生態系は地域の宝」 森林文化部会

開催日時 平成21年11月29日(日) 13時30分～16時

開催場所 桜美林大学 PFC(プラネット淵野辺キャンパス) P201教室

講師 只木良也氏 <国民森林会議 会長・名古屋大学 名誉教授(農学博士)>

参加者 98名



この講演会の企画は、昨年10月の21年度ブラッシュアップ企画案提出に始まり、ブラッシュアップ不採用となったときから、森林文化部会の事業として準備が進められた。只木氏がどこにお住いか、講演料はどのくらいか、それより先にどこに連絡をしたらいいのか、雲をつかむような不安を払いのけられたのは、ただ「只木氏のお話が聞きたい」の一念であった。21年度の予算が認められ、只木氏の快諾を得て、本格始動したのが4月、一番の苦労は会場探しであった。

100名を収容できる公共施設の会場は少なく、優先使用が決まっていたり、6ヶ月前の予約・抽選に外れたり、とチラシの作成や後援名義使用の申請手続きへの影響が心配されたとき、幸いにも桜美林大学の全面的な協力をいただけることになった。

講演会当日は、講師が森林生態学の第一人者ということもあり、また、神奈川県、相模原市、他4団体から後援をいただいたこともあり、98名(事前申し込み104名/定員100名)の参加者を得た。当会の会員が61名、その他は自然観察指導員や森づくりなどのボランティア活動に参加している方、一般の方で、森林の多面的効用や、自然環境に関心を持っている方がいかに多いかが窺えた。講演の内容も我が国の自然環境、森林の遷移・生態系、原生林は自然回復の手本、これからの里山は都市施設の一部など、人と森とのかかわりをわかりやすく話していただけた。もう少し踏み込んだお話が聞きたかったとの



講師 只木良也氏

思いもあるが、只木氏のお人柄が、終始和やかな雰囲気の中に終了した。

終了後のアンケート(回収率93%)によると、88%の方が講師のお話は期待通りだった、と回答した一方スライドの苦情も12%あった。感想は概ね好評で、再認識した、新情報を得た、今後の活動に生かしたい、などこれからの森づくりの活動の輪が広がっていく期待が持てて講演会の目的は達せられたと感じた。

ただ、運営面では初めて経験することばかりで余裕がなく、事前に予測できた事への適切な対応ができなかった自責の念が残る。スライドの映像に対する対策、講演時間の管理などである。そのことを反省した上で、最新設備を整えた大学で年代物のスライドを映写してくださったことも、貴重な時間を延長してお話くださったことも、只木氏のサービスだったのではないかと手前勝手に考えてありがたく思っている。

大風呂敷を広げて、奮闘した1年間であったが、多くの方々のお力添えをいただき、無事に終わることができてほっとしている。ご協力、ご支援、ご声援、ご参加くださった大勢の方々と遠路、京都からお越しいただいた只木良也氏に深く感謝している。



熱心に講演を聞く参加者 写真：広報部(鈴木松弘)

<森林文化講演会担当 内野ミドリ>